

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、送付します。

病害虫発生予察 注意報第7号

1 農作物名 キク

2 病害虫名 キク茎えそ病 *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)

3 予報内容

- (1) 発生地 県内全域
- (2) 発生量 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 本年6～8月に県本土各地の施設キクで本病の発生が多く確認された。
- (2) 本病は平成21年10月に枕崎市で初確認(平成21年度特殊報第4号参照)された後も、県外等からの感染苗等の導入や移動に伴い、同時的に各地で発生した可能性が高い。
- (3) 本病の主な媒介虫のミカンキイロアザミウマは、4～5月と9～11月に発生が多くなるため、今後、感染が増加する恐れがある。
- (4) 本病はブラジル原産のウイルス病で、国内では平成18年に広島県で初めて確認され、その後、西日本～関東等を中心に相次いで発生が報告されている(平成22年8月末現在18県)。このため、今後も県外等からの母株等の導入による感染拡大が懸念される。

5 防除上注意すべき事項

キクえそ病(TSWV)の防除に準じ、以下の対策を実施する。

- (1) 母株での感染はその後の被害が甚大となるので、母株や苗の導入に際しては細心の注意を払い、発生地からの導入を避けるとともに、自家母株と導入母株を区別して管理するのが望ましい。
- (2) 発病株は、速やかに除去(埋設、焼却など)するとともに、媒介虫のミカンキイロアザミウマの防除を徹底し、二次感染を防止する。
- (3) 発生ほ場では、無病親株に更新する。
- (4) 施設内外の除草を徹底する。
- (5) 施設の開口部には目合い1mm未満の防虫網を張る。ミカンキイロアザミウマの発生動向を把握するためには、出入り口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。
- (6) キク以外の作物では、トマト(千葉県、富山県)、アスター及びトルコギキョウ(富山県)への感染報告がある。

(参考資料)

<キク茎えそ病の病徴>

○茎での症状



【写真1】明瞭なえそ症状を生じる



【写真2】
葉柄基部のえそ症状



【写真3】
症状が進むと葉が
垂れ下がる

○葉での症状



【写真4】新葉での退緑はあまり目立たない



【写真5】葉脈のえそにより奇形となる